

そもそも「男女共同参画」に何を期待するのか？

そもそも、男女共同参画とはなにか？何を目指しているのか？自分がやりたいことが性別にとらわれずにできるような社会、をみざすものと思います。女性だから、男性だから、～ができない、ということがないような社会を実現することを目指しています。あるいは、これの障害となるようなことを取り除くように、環境を整備することです。

熊本大学では、科学振興調整費「女性研究者モデル育成事業」の提案課題『地域連携によるキャリアパス環境整備』の採択を受け、H18年度からH20年度までの3年間、大学における環境整備を進めきたことをきっかけに、大学の推進体制を整えてきました。「熊本大学男女共同参画推進基本計画」を策定し、今後の大学の十カ年計画を明確にし、それを元に各部局からの男女共同参画委員会を中心に男女共同参画に関する推進活動してきました。この3年間の成果として、特筆すべきこととして、ハード的には保育園の整備、そして短時間勤務などの制度改革です。ソフト的には、意識改革、そして、保育支援、おび育児をしている女性に対する研究補助者の派遣です。平成20年度には、3年間の事業が終了、平成21年度からは大学の予算でこれらの事業を実質上継続して行っています。

そもそもこの事業の始まりは、学会での男女共同参画の活動の一環として、学会員からの切実な要望、当事者でない気がつかないことを取りまとめて、要望書という形で関係省庁に働きかけたボトムアップ的なものでした。これまでは、科学振興調整費「女性研究者モデル育成事業」として熊本大学で環境整備を行ってきました。今年度からの「女性研究者養成システム改革加速」も元はといえば、ボトムアップ的なものでした。

部局によっては、独自の事情もあり、部局によってそれぞれの抱えている課題が違うはずです。それぞれの部局において、どのようなシステムがあれば「男女共同参画」が達成できるのか、について考えていくことが今後必要ではないかと思います。各部局のメンバーにはボトムアップの声を吸い上げて、大学あるいは部局の方針設定に反映できるようなシステムにしたいものです。



～今後の展望～

これまでは「女性研究者モデル育成」でもしばしば指摘を受けていますが、女性のみが子育てをしているわけではありません。男性が子育てに参加することが、今後ワーク・ライフ・バランスを推進していくためには大変重要な課題です。これまでの取り組みを踏まえて、如何にワーク・ライフ・バランスを推進していくのか、今後の展開が楽しみです。